

第12回シンポジウム報告

未来を拓く社会からのメッセージ～あなたのキャリアデザインのために～

男女共同参画推進委員会

本シンポジウムが目指すもの

第92春季年会の初日（3月25日）慶應義塾大学日吉キャンパスにて、男女共同参画推進委員会主催の第12回シンポジウムが開催された。本シンポジウムは、昨年度大震災で中止となった第11回シンポジウムのコンセプトを引き継ぎ、化学を学んでいる学部生・院生たちに自分たちの将来を夢とともにデザインする手掛かりを得てもらうことを目的として企画された。今回は、初めて対象を男子学生にまで広げることで、女性研究者の活躍推進の次のステージとなる「ダイバーシティ」を目指す第一歩となった。

シンポジウムの内容紹介

岩澤康裕日本化学会会長が開催挨拶の中で、本年度新設された「女性化学者奨励賞」の経緯を紹介され、男女共同参画推進の重要性に関して力強いお言葉をいただいた。引き続き、本シンポジウムの実行委員長である東工大大穴戸厚先生による趣旨説明のあと、本委員会の佐々木政子委員長より、「夢と化学とライフデザイン」と題する基調講演をいただいた。スライド作成中に、男子学生も聴講することに気付き、内容を検討し直したそうである。男女共同参画とは何か、なぜ必要なのか、をわかりやすく解説するとともに、現在活躍されている多くのロールモデルをご紹介いただいた。講演終了

後、先生の熱意あふれる講演に感銘を受けた学生が興奮気味に感謝の意を述べていた姿が印象的であった。

続いての依頼講演では、(株)資生堂の石野章博氏より、「資生堂リサーチセンター：“Gender Equal Society”を目指して」という演題でお話いただいた。女性研究者の比率がすでに4割を超え、45歳以下では男女比が1：1であるリサーチセンターでは、女性社員が出産後も働き続ける段階は達成され、男性社員の育児休暇取得率も急速に上昇し、パートナーの転勤に随行するための制度も整備されている、などが紹介された。今後は、女性社員のキャリア育成やその支援の充実を目指していくとのことであった。

次に、NTT(株)の上野祐子氏から、「NTT研究所の男女共同参画の取り組みと私のワークライフバランス」という演題でお話いただいた。研究所では女性研究者の比率がまだ低いものの、働きやすい環境が整備されており、育児中のご自身がどのようにワークライフバランスをとっているのかを実例を挙げて紹介いただいた。

(株)豊田中央研究所の濱口豪氏からは、「共働きのワークライフバランスについて～イクメン研究者の日常～」という演題でお話いただいた。家事も育児も男女を問わず限られた時間内で互いにうまく工夫して担当することで、自身の趣味の時間をも作ることができると力説

されていた。

また、三井化学(株)の小林洋子氏より、「人材戦略としての女性活動推進」という演題で人事部の立場からお話しいただいた。パートナーの転勤に随行するための制度もあるなど制度面の拡充は進んでおり、男性社員の育児休暇取得も増加している。その一方で、管理職に就く女性のロールモデルは少なく、今後の課題とのことであった。

最後に、東京工業大学の林ゆう子氏より、「大学等の“男女共同参画推進”の状況と、私自身の仕事と生活バランス」という演題でお話しいただいた。大学での男女共同参画は企業より遅れており、独特の環境の中でいかに制度を拡充していくかを模索されてきた。すべての女性研究者からヒアリングを実施し、ライフワークバランスのとり方が百人百通りと異なることを実感、まさに多様性（ダイバーシティ）を持たせた制度作りが重要とのことであった。

今後の展開

今回、学生や一般の方々から、男女共同参画という言葉やその講演を初めて聞き、とても感銘を受けたとの意見を多数いただいた。今後、このような活動を、中学・高校の理科教育に携わる会員の方々まで広く知っていただき、次世代の育成に役立てていきたいと考える。

[シンポジウム実行委員 北川尚美(東北大学)]

©2012 The Chemical Society of Japan